

## 【台湾魅力発信】 台湾観光協会・葉菊蘭会長 特別インタビュー

日本台湾交流協会台北事務所は、交通部長や客家委員会主任委員（いずれも大臣級）など要職を歴任し、現在は台湾観光協会の会長である葉菊蘭会長に日本人に伝えたい台湾の魅力についてインタビューを行いました。本稿では、当該インタビューのうち、客家文化の魅力について特集します。その他のインタビュー内容については、次号に掲載する予定です。

インタビュー実施日：2018年1月25日

インタビュー実施場所：台湾観光協会

インタビュアー：公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所総務室主任・寺山学

### ＜葉菊蘭氏 略歴＞

1949年2月13日生まれ、苗栗県銅鑼郷出身、輔仁大学法律学部卒

主な経歴：交通部長（2000-2002）、客家委員会主任委員（2002-2004）、行政院副院長（2004-2005）、高雄市代理市長（2005-2006）、總統府秘書長（2007-2008）、台湾観光協会会長（2017-現在）



### 日本人にこそ知ってほしい客家文化

（寺山）葉会長も客家出身と伺っております。私もこれまでに客家人が多い苗栗県や新竹県などに足を運びました。

（葉会長）苗栗県のどこに行きましたか。

（寺山）苗栗県の銅鑼郷にも行きました。銅鑼郷は葉会長の出身地だと思いますが、客家について紹介する客家博物館（「苗栗客家文化園區」）もあり大変魅力的な場所でした。この客家博物館を訪れ、客家といっても、出身地域ごとにも異なる多様な文化を持っていることについて改めて理解できました。

（葉会長）客家文化について言えば3つの特徴があると思います。それは客家の音楽、文学そして



苗栗客家文化園區（苗栗県銅鑼郷）  
多様な客家文化について展示

女性です。客家と一言で言っても、実はとても多様な概念です。台湾の客家人は各地に分散されて

おり、歴史的にも、台湾の海岸部から丘陵地帯に移動していった経緯があります。こうした複雑な経緯から、客家人の多くが、生活のために閩南語（台湾語）を話します。ただし、忘れてはいけないのは、客家人としてのアイデンティティは当然客家語にあるということです。そのため、客家語が客家人であることの「パスワード」となります。台湾では、閩南（ミンナン）人同士で初めて会った時に、「私も閩南人です」と話すことは殆どありませんが、客家人同士では初めて会った時によく「私も客家人です」と反応します。これには客家人が台湾社会で少数派であることと深い関係があります。この客家人としてのアイデンティティの源は、先ほどお話しした言語や客家の「山歌」にあると思います。客家の「山歌」を歌えば、客家人は「自分たちの家族の一員である」と認識するのです。

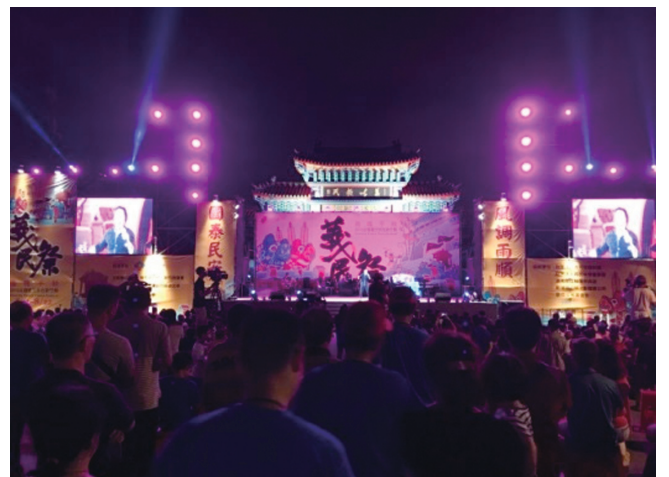
客家のお勧めの観光地は沢山あります。台湾東部や、台東と花蓮を結ぶ花東縦谷には多くの客家人の生活地域があります。花蓮の吉安から瑞穗、玉里から台東の富里や關山にかけても多くの客家人が暮らしています。池上縦谷一帯は特に客家人の割合が高く、一昔前は住民ほぼ全員が客家人という状態でした。彼らは歴史的には田植えをし、お茶を栽培して生計を立ててきました。また、その多くが台湾西部から東部に渡った台湾内の移住者です。そのため、花蓮や台東に行く際には是非、当地の客家文化にも注目して欲しいと思います。

次に、台湾西部の客家地域について、台北を起点に「ロマンチック国道三号線（中国語では「浪漫台三綫」。蔡英文政権が打ち出した重要な客家の振興政策の一つ）」と呼ばれる国道3号線に沿って紹介したいと思います。

まず、起点となる台北市ですが、実はこの台北市にも多くの客家人が生活しており、多くの客家料理店があります。そこから新北市に入ると三峡区があり、この地域にも客家人が多く、当地の客

家文化を紹介する客家文化園區があります。そこから更に南下すると、新竹県に入りますが、新竹県には閩西や北埔、あるいは柿や仙草が有名な新埔など多くの客家居住地域があります。更に南下をし、苗栗県や台中市では苗栗県の南庄、獅潭、大湖、卓蘭、台中市の東勢、石岡など有名な客家の町が続きます。台湾南部で有名な客家地域と言えば、高雄市と屏東県にまたがる「六堆」という地域です。現在の客家委員会主任委員である李永得氏もこの地域の出身です。

「ロマンチック国道三号線」は、日本とも深い関係を持っています。1895年の乙未戦争（下関条約



義民廟（新竹県新埔鎮）

義民廟は年に一度客家人の祭りである「義民祭り」の開催地。



東勢客家文化園區（台中市東勢区）

日本時代に建てられた駅舎を利用した博物館。広東省大埔県出身の客家文化を紹介。

によって割譲された台湾に上陸した日本軍と、それに抵抗する一部の台湾住民との戦闘)では、日本軍は三貂角から上陸し、台北盆地や大溪などを次々と制圧していきましたが、「ロマンチック国道三号線」付近では、強い抵抗勢力と対峙することになりました。なぜなら、戦いや開墾のための私兵を持ち(いわゆる屯墾部)、資金力もあった客家人がいたためです。乙未戦争では、弱冠19歳であった姜紹祖氏をはじめ、徐驥氏や吳湯興氏が活躍しました。この乙未戦争を描いた映画に『1895』というものがあります。

(寺山)『1895』は見たことがありますが、全編客家語の映画であり、非常に興味深い内容でした。

(葉会長)姜紹祖氏の父親は北埔の開発を勢力的に進めた人物で、茶葉の輸出はすべて姜家を通じて行われていました。「ロマンチック国道三号線」で生産された茶葉は大溪から萬華へ運輸され加工製造した後イギリスの東インド会社へ送られていました。そのため、姜紹祖氏のように私兵をもつ大規模な勢力が存在していたのです。自身の産業地域の保護のため、外部からの侵入者に対しては、私兵を用いて打ち払っていました。それが日本人であろうと閩南人であろうとです。乙未戦争でこの地域において惨烈な戦いが起きたのはこのためです。

乙未戦争では「ロマンチック国道三号線」から八卦山まで戦いが繰り広げられ、最後は徐驥氏、姜紹祖氏、吳湯興氏らが戦いました。戦死した吳湯興氏の後を追って彼の妻が自殺したのですが、当時、敵であった日本人は、彼女に敬意を表し丁寧に埋葬しました。私は「ロマンチック国道三号線」は「歴史の道」であると思います。

さらに獅頭山には勸化堂という場所があります。ここには日本人の軍人(廣枝音右衛門)が祀られています。この軍人は第二次世界大戦中、客家人台湾兵を指揮して太平洋に出兵しましたが、この部隊には玉碎命令が下されました。彼は、日



天水堂(新竹県北埔郷)  
姜紹祖氏の故居。現在でも姜氏の子孫が居住。



八卦山抗日保台史蹟館(彰化市)  
過去の地下シェルターを利用した乙未戦争に関する博物館。

本の敗戦を悟ったので、台湾兵には玉碎する必要はなく台湾に帰るよう言い残し、自身は自決しました。後に客家人台湾兵は彼を獅頭山付近に神として祀りました。これは作り話ではなく、史実です。これもまた「歴史の道」です。

また、「ロマンチック国道三号線」は「産業の道」でもあります。仙草、干柿餅、茶葉、客家料理などさまざまな名物があります。客家人は節約家なので、日本人と同じように塩漬けの食品も良く作ります。そのほかにも、陶芸品や木彫製品の製造もしており、まさに「産業の道」と呼べるでしょ

う。

さらには、「ロマンチック国道三号線」は「文化の道」でもあります。実は、歴史を振り返ると、台湾文化の礎を築いた多くの著名人がこの地域の出身なのです。例えば、音楽界では鄧雨賢氏が有名です。鄧雨賢氏は日本統治時代に数多くの名曲の作曲家として活躍した客家人です。彼の曲は日本の軍歌にもなりました。

(寺山) 鄧雨賢氏の代表作としては、「望春風」、「雨夜花」や「四季紅」など多数ありますね。

(葉会長) 文学界でも鍾肇政氏、李喬氏や鍾理和氏などの素晴らしい作家が多くいます。多くの画家も輩出しており、日本に留学した者も多数います。また、鄧南光氏という多くの素晴らしい作品を残した有名なカメラマンもこの地域の出身です。



干し柿（新竹県新埔鎮）  
新竹県の干し柿は台湾全土でも有名です。

ぜひ日本の皆様には客家人の文化にも触れていただきたいと思います。

